

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	A さん		
所属	_____学部・大学院 教育学研究科 学科・専攻		
留学先機関名	マッセー大学 (国名： ニュージーランド)		
参加プログラム 区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他：		
留学期間	2020年2月24日－ 2020年3月13日 (2月22日出発、3月14日熊本到着)	留学開始 時学年	<u> 1 </u> 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業 (熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ！留学 JAPAN 【第 期】 <input type="checkbox"/> その他 ()		



<p>その他生活に必要な手続き、アドバイス (口座開設、保険、携帯電話、荷物、支払い方法など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯機・乾燥機やドライヤー、無線 Wi-Fi を使用できるかを事前にホスト先にメールで質問した。 ・外での連絡のために成田空港で海外用 Wi-Fi をレンタルした。持っていない学生もいたが、連絡やマップ、バスの時間検索などあった方が便利だった。 ・現地は夏季だったが、気温差が大きく現地で上着を購入する学生が多かった。 ・受託荷物の重量制限(1人1個 23 kgまで)に苦戦する学生が多かった。
---	---

3. 留学先の大学について

<p>プログラムの概要について(授業・フィールドワーク内容、スケジュール等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスは12名(日本人9名、他国からの留学生3名)の少人数制で、日本人は事前のテストで4つのクラスに分けられていた。 ・午前9~12時(内休憩30分)、午後13~15時 曜日によって free afternoon or 14時までの短縮授業 ・授業時間内は英語のみを使用するルールで、日本語を話していると先生から注意されることもあった。 ・文法や長文読解、リスニング、ライティング、スピーキングを学習した。中学~高校レベルの難易度。 ・2週目にグラフについての記述試験があった。他のクラスもそれぞれテストが実施されていた。 ・ほぼ毎日宿題が出された。長文読解やニュースの要約、オンラインでの宿題があったが、特に大変ではなかった。 ・午後にスポーツ、文化体験、町の探索、海に行く時間などが組まれていた。
<p>留学先大学でのサポート体制について (語学面/学校生活/住居・日常生活等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人スタッフや日本語が話せるスタッフが常にサポートしてくれていたため、安心して生活をする事ができた。 ・昼休みにはラウンジで無料のランチやスナックを食べることができる日があった。キッチンでは調理器具や調味料を自由に使うことができた。 ・学生証があれば無料でバスに乗ることができたため、通学や移動が簡単だった。 ・スケジュールの連絡を大学からホスト先にしてきていたので、空港への送迎などもスムーズだった。
<p>留学開始後に行った留学先大学の手続き (学生証、履修登録、大学IDの設定等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでのID登録、学生証の発行 ・事前のオンラインテスト

<p>休日や余暇の過ごし方 (観光、現地学生との交流等) ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平日の午後はショッピングモールやスーパーで買い物を楽しんだ。天気の良い日は公園やカフェへ行った。 ・休日はホストファミリーと買い物をしたり、お祭りに参加したりした。ステイ先で料理をすることも多かった。 ・2週目の週末に熊本大学の学生で首都ウェリントンへ行った(高速バスは町の観光案内所で手配した) ・他国からの留学生と買い物をしたり、カフェへ行ったりした。
---	--

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果(語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください)

大学での授業はすべて英語で行われましたが、担当の先生が分かりやすく丁寧に話してくれたので、毎日充実していました。同じクラスに他国からの留学生が3人いましたが、スピーキング力と積極性に驚きました。日本の学生は、文法や長文読解が得意で、活躍する場面も多くありました。先生は私たちの英語を間違っているでも「あなたが何を言いたいのかとにかく説明してみてください!」と言って理解してくれました。上手く話せなくても、まずは伝えたいと思うこと、伝えようとする、また相手の言いたいことを理解しようとする大切さを学びました。

ニュージーランドはThank youをたくさん言う国だと聞いていましたが、本当にThank youをたくさん言われたり言ったりしました。バスを降りるときに全員が運転手の方にThank youと言っているのが新鮮でした。何気ないことですが、あたたかさを感じ、挨拶というコミュニケーションが大事であることを再認識しました。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス(留学先大学、プログラムに関する事、生活全般に関する事など自由に記載してください)

- ・ニュージーランドは日本と似ているところも多く、とても生活しやすい国でした。現地の方々も、温厚で陽気な人が多く、楽しく過ごすことができます。
- ・現地の大学では、日本からの学生が多く、つい日本人と日本語で話すことが多くなってしまいます。せっかくの機会なので、積極的に現地の学生や他国の留学生とコミュニケーションをとるようにすると良いと思います。
- ・ステイ先では、家庭によってルールが異なるので、初日に確認することが必要です。日本人は遠慮したり無理をしたりしがちですが、意思をちゃんと伝えることで、お互いストレスなく生活できると思います。特に食事が合う、合わないは重要です。言いにくい場合は、現地スタッフの方から伝えてくれます。
- ・キャッシュレスが進んでいるので、クレジットカード(VISAかmaster)が便利です。現金は最小限で大丈夫でした。
- ・水道水が飲めるので、水筒があると便利でした。

留学を通しての感想

今回の短期留学で得たのは、英語を話すことが楽しい！ということです。私は教員になる予定で、英語を教える立場になります。よく子どもから「なんで日本人なのに英語を勉強するのか」と聞かれることがあります。私自身、うまく答えが持てずにごまかしてきましたが、この留学を通して、英語で他国の人と会話ができることの楽しさを学びました。そして、他文化を理解して受け入れる上で、言語というのはとても大事であると思いました。全く違う国や文化でも、同じ言語を話していると何となく仲間意識が持てるように感じ、相手ともっと話したい、もっと知りたいと思うようになりました。そして、他の国や文化のことを知るほど、日本への愛着や興味も湧きました。

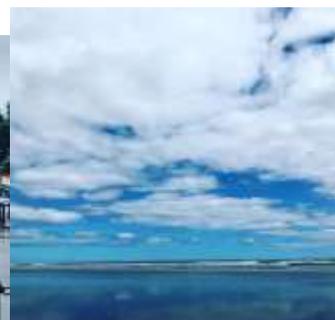
3週間という短い期間、そして不安の多い時期の留学でしたが、たくさんのことを得た3週間でした。旅行ではなく、留学という形で大学に通ったり、ホームステイをしたりしたことで、リアルなニュージーランドを知ることができました。今回の留学で学んだことを生かして、子どもたちに外国語を学ぶことの楽しさを教えていきたいです。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	B さん		
所属	理 学部・大学院 _____ 理 _____ 学科・専攻		
留学先機関名	マッセー大学 (国名： ニュージーランド)		
参加プログラム 区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他：		
留学期間	2020年2月24日－ 2020年3月13日 (2月22日出発、3月14日熊本到着)	留学開始 時学年	_____ 1 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業 (熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ！留学 JAPAN 【第 _____ 期】 <input type="checkbox"/> その他 (_____)		

写



1. 出発前の準備について

ビザの申請	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 種類()	ビザ申請先	<input type="checkbox"/> 国内 <input type="checkbox"/> 現地 場所()
留学に向けて 取り組んだ語学	<input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> 独語 <input type="checkbox"/> 仏語 <input type="checkbox"/> 中国語 <input type="checkbox"/> 韓国語 <input type="checkbox"/> その他()		
勉強方法	大学の講義 参考書		
必要経費 (留学に必要な 支払い費用) ※概算費用(おおよ その費用)	<input type="checkbox"/> プログラム費用 14万 円 <input type="checkbox"/> 宿泊費用(寮/ホームステイ等) 7万 円 <input type="checkbox"/> ビザ申請 0 円 <input type="checkbox"/> 渡航費(<input type="checkbox"/> 片道 <input checked="" type="checkbox"/> 往復) 18万 円 <input type="checkbox"/> 海外旅行保険料 2万 円 <input type="checkbox"/> 食費 0~1万 円 <input type="checkbox"/> その他() 円		

2. 渡航～到着後の生活について

利用航空会社	ニュージーランド航空	手配	H. I. S ※利用したサイト、旅行会社等
移動経路 ※往路のみ	福岡～成田～オークランド ～パーマストンノース	到着 時刻	【※移動時間(約14 時間)】
大学(寮)への 移動手段	<input type="checkbox"/> 大学手配の出迎え <input type="checkbox"/> 知人の出迎え <input type="checkbox"/> タクシー <input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関(<input checked="" type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> 電車) <input type="checkbox"/> その他()		
空港から移動する 際の注意点 行き方、料金等	ホストファミリーの送迎		
宿泊先	<input type="checkbox"/> 寮 <input checked="" type="checkbox"/> ホームステイ その他()	宿泊 手配	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 自分で その他()
部屋の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 一人部屋 <input type="checkbox"/> 二人部屋 その他()	ルーム メイト	<input type="checkbox"/> 日本人学生 <input type="checkbox"/> 他国からの学生 その他()
その他生活に必要な 手続き、アドバイス (口座開設、保険、 携帯電話、荷物、 支払い方法など)	自分でグローバルWi-Fiを手配した(300mb/日)。 海外旅行保険は必須。私は旅行会社に紹介されたものに参加。 クレジットカードは高額な買い物(現地での旅行)にも便利であり、ほぼ必須といえる。ただしvisaかmasterに限る。		

3. 留学先の大学について

<p>プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）</p>	<p>授業について 熊大生に加えて他の大学の日本人や外国人の生徒がクラスメートであり、10人程度の少人数での授業である。内容は一人の先生との対話や生徒とのディスカッションがメインである。題材は社会問題など。午前(9-12)は毎日授業が行われ、午後(1-3)は週に三日であり午前と午後で先生が異なる。</p> <p>フィールドワーク 学校側に用意された小旅行は二回あり、ビーチや観光地を訪ねた。ガイドの先生もおり十分に楽しめた。学校内においてもスポーツ大会や歓迎・送別のパーティーなども行われる。</p> <p>授業時間は連続しているためやや長く感じることもあったが、全体的なスケジュールには相当な自由時間があり、能動的に遊びに出ることができる。</p>
<p>留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）</p>	<p>熊本大学の専属でサポートをするスタッフは三名程度おり、うち一名は日本人である。その方以外にも日本語が堪能なスタッフは複数名いるため言語の問題はない。私は現地で松葉杖を一時使用する程のケガをしたがその際のサポートは非常に手厚かった。ただし緊急時の連絡先が一名のスタッフとのLINE頼りであり、通じないことも珍しくなく唯一不安を感じた。</p>
<p>留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学IDの設定等）</p>	<p>学生証については、渡航前にマッセーから送られるメールに従って写真などを送る必要がある。現地では学生証は受け取るのみである。学内のサイトの利用法については簡単な説明があるが、利用する機会もそう多くなく操作も容易である。</p>
<p>休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に</p>	<p>放課後にはバス路線の関係上必ず市街地に行くため、友達同士で探索することが多かった。都会ではないがショッピングモール、飲食店、アクティビティなどは充実している。現地のスタッフにおすすみを尋ねるのが最も良い。</p> <p>週末は丸々フリーであり、基本的に自分たちで計画を立てるが、出かける計画を立てているホストファミリーもいる。我々は熊大の参加者全員でウェリントン旅行をした。バスケットの手配などもあるため準備にはよく話し合いをすべきである。</p> <p>昼食をとる建物が留学生のためのものであるため、他国の人と話す機会は多くある。</p>

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

授業とホストファミリーの家においては否が応にも英語のみの環境となるため、よいトレーニングになったと感じる。日本人の英語能力においてやはりスピーキングとリスニングに大きな課題があることを痛感した。先生や現地の友達に対しては自分の考えをはっきりと示す必要があり、コミュニケーション能力が鍛えられる。

それ以外の場面、交通機関や店員との会話などは自分から話すくらいの積極性を持つと勉強になった。特に日本人特有のごまかし笑いやあいまいな受け答えは理解を得られないことが多い点もコミュニケーションの取り方の違いを感じられる。

言語も含め基本的に日本よりもいい意味で不自由な生活であることが、何をすべきか時分の頭で考える機会を多く与えてくれたと感じた。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関すること、生活全般に関する事など自由に記載してください）

ニュージーランド、パーマストンノースは気候も穏やかで治安もよく、留学経験がない私のような人にもお勧めできると感じた。

事前の説明があると思うが、私はポケット Wi-Fi は必ず用意しておくべきだと考える。大学や家では問題ないが、現地で出かけたとき全くスマホが使えないのは致命的である。また、普段の食事がやはり日本のものとかかなり異なったり、ホストファミリーの家はメニューがあまり変わらずにつらくなる時があった。日本の調味料などをもっていくのもいいと思う。

反対にクレジットカードは必須といわれる割に、あれば便利という程度の印象である。洗濯の頻度が少ないため、下着やタオルは多めが好ましいが、荷物が多すぎると空港だけでなく自室でも不便な思いをすることになる。

留学を通しての感想

私は海外に行くこと自体が今回が初めてであったので、英語だけの生活に対する緊張は少なからずあったが、ホストファミリーの人々は非常に優しくすぐに慣れ親しむことができた。本当に英語だけの生活や授業は、何とか伝えようとする努力を必要とし、その過程は自分にどのような語彙、文法が表現できないかを自覚させてくれた。私はこれまで英語が得意なつもりでいたが、本当に英語が話せるとはどういうことなのかを知った。日本に戻ってからは、話すことと聞くことを鍛える学習を工夫していこうと考えている。語学以外にも、日本とは全く異なる異国の生活様式に触れられたのは大いに新鮮で楽しかった。自分の常識とは、本当に世界の常識なのか。これからもそのことを意識しながら今しかできない勉学を続けたい。

熊本大学海外派遣留学生 報告書

(協定校サマースクール／語学セミナー)

氏名	Cさん		
所属	_____ 工 _____ 学部・ _____ 土木建築 _____ 学科		
留学先機関名	マッセー大学 (国名： ニュージーランド)		
参加プログラム区分	<input type="checkbox"/> 協定校サマープログラム <input checked="" type="checkbox"/> 語学セミナー <input type="checkbox"/> その他：		
留学期間	2020年2月24日ー 2020年3月13日 (2月22日出発、3月14日熊本到着)	留学開始 時学年	_____ 2 _____ 年次
奨学金 (奨学金を受給 した場合)	<input type="checkbox"/> 奨学金受給無し <input checked="" type="checkbox"/> JASSO 海外留学支援制度 <input type="checkbox"/> 国際奨学事業 (熊本大学) <input type="checkbox"/> トビタテ！留学 JAPAN 【第 _____ 期】 <input type="checkbox"/> その他 (_____)		



現地での写真(右：留学生の集合写真，左：大学の様子)

3. 留学先の大学について

<p>プログラムの概要について（授業・フィールドワーク内容、スケジュール等）</p>	<p>同プログラム参加者を、出発前に受けたテストに従って数クラスに分けた。熊大だけではなく、他の日本人や海外の学生と授業を共にした。スケジュールは、月火木は午前と午後の授業があり、水金は午前の授業のみで午後は自由時間だった。授業内容はとてもシンプルで、レジャーや祭り、ニュージーランドの文化について、複数人のグループを作り話しあった。先生も自分たちの英語のレベルを把握しており、聞き取りやすく話してくれた。簡素に言うとてもオープンな授業で、少人数のため全員が参加できる質の良い授業だと感じた。</p> <p>フィールドワークに関してだが、こちらは大学側が沢山用意してくれていた。第1週には放課後パーティーやスポーツを行なった。そして他にもビーチを訪れたり、大学内を探索したりした。ただ、小学校訪問の予定が諸事情により中止となることもあり、全てを行えたわけではなかった。</p>
<p>留学先大学でのサポート体制について（語学面／学校生活／住居・日常生活等）</p>	<p>全体を通して、サポートは充実していたと感じる。語学面では前述の通り、クラス分けが行われたので自分のレベルに合わせて、授業を受けることが可能だった。日常生活に関しては、現地に日本人サポーターがいらっしやったので日本語で相談することが可能だった。また、万が一ホストファミリーとの相性が合わない場合でも、新たなホームステイ先を検討してくれていた。</p>
<p>留学開始後に行った留学先大学の手続き（学生証、履修登録、大学 ID の設定等）</p>	<p>プログラム初日の放課後にオリエンテーションが設けられ、そこで学生証を受け取り、大学 ID の確認もされた。</p>
<p>休日や余暇の過ごし方（観光、現地学生との交流等） ※どうやって探したか、きっかけなども具体的に</p>	<p>平日の放課後には、同じ日本人の学生たちと街に出かけ散策した。バスが集まるメインステーション付近は発展しており、商業施設やその他飲食店などが立ち並んでいた。そして週末には、ホストファミリーが色々な場所に連れて行ってくれた。これは任意であって、土日に学生と遊ぶ約束があった場合はそちらを優先させて良いとのことだった。また、ある休日に熊大の学生全員で首都ウェリントンに行く計画を立て、自分達でバスの予約を取った。旅行の計画に関しては、日本人サポーターや現地のインフォメーションセンターを活用した。</p>

4. 留学成果とアドバイス

留学によって得られた成果（語学に関すること、ものの考え方や取り組み方、コミュニケーション能力など自由に記載してください）

3週間という限られた期間で、語学の向上は目に見えてわかるものではなかったが、リスニングに関しては養うことはできた。そもそもNZはイギリス英語が根付いており、アメリカ英語とは発音や綴りが少々異なっていた。しかし1週間程度で文化と共に英語の環境に慣れて支障無く生活を送れるようになった。語学面では以上のように大きな変化は得られなかったが、自分の価値観や視野については劇的に変わった。留学をするために英会話表現を学んでいたが、留学を通してさらに英語を身につけたいという意思が強くなった。そもそも留学前の自分は、内向的でかつ人前で発言することに抵抗があったが、NZの環境下で生活してみると、現地の人々の明るさや授業の楽しさに触れることが出来た。これにより、自分の意見を他人に伝えることや、そもそも自分の意見を持つことの重要性に気づき、物事を客観的に捉えるようになった。

同じプログラムへ参加を希望する人へのアドバイス（留学先大学、プログラムに関する事、生活全般に関する事など自由に記載してください）

まずはじめに留学先のマッセー大学についてだが、当大学は自然に囲まれており広大なキャンパスである。また、実に多国籍な学校で、日本や中国その他アジア圏を始め、ヨーロッパや東南アジアの学生も非常に多く通っている。またNZの気候は、当時は晩夏で、朝はかなり冷え込み16時ごろに最も暑くなった。基本的に半袖で生活できたが、朝はパーカー等羽織るものがあれば快適だった。

プログラムの授業内容は、英語を用いた基本的なもので、単語力や説明力、そしてリスニングやライティングをメインに学んだ。全員が発言を強いられるので、授業内容を理解する必要がある、とても効果的な授業であったと感じる。

ホームステイ先での生活に関しては、多国籍文化であるために不規則であるが、日本と異なることが多くみられた。例えばシャワーは原則15分のみ使用できること、洗濯は数日に一度のみ、など適応しなければならないことが多くあった。

留学を通しての感想

主観的にみて一番大きな変化と言え、ものの見方や考え方が変わったことだと思う。日本の中で日本人と生活していたら気づけなかったことが数多くある。留学前は、安定的な将来設計をしており、現状に満足していた。それがいつしか傲慢に変わり、変化を恐れていた。しかし、留学を通して様々な人と出会い、同じ日本人でも他とは違う目を持つ人と出会え、多くの刺激を受けた。とにかく外国にいる人は明るく積極的だと感じたし、その環境の方が自分に合っていて楽しいと思うことが出来た。つまり本当に怖いものは、変化を嫌い行動を起こせないことだと気づき、また変化している時間に最も価値があることに気づいた。

帰国してからも考えることが多々あるが、英語を話せることが出来たらどれほど将来に幅ができるのだろうか。また、外国で生活してみて、海の外から見た日本と自分の中の日本を比べ、今後日本のために何ができるのだろうかと自分自身考えるようになった。

